

中有知地区における長良川の治水対策について

国土交通省 中部地方整備局
木曽川上流河川事務所
令和4年10月

- 遊水地整備の必要性について
- 平成16年10月洪水対応の河川整備を行う必要性について
- 遊水地整備後の中有知地区の治水安全度について

平成16年10月洪水による被害

被害状況（直轄管理区間上流端～板取川合流点）

浸水面積：461ha

被災家屋：床上浸水218戸

床下浸水142戸

半壊家屋 8戸

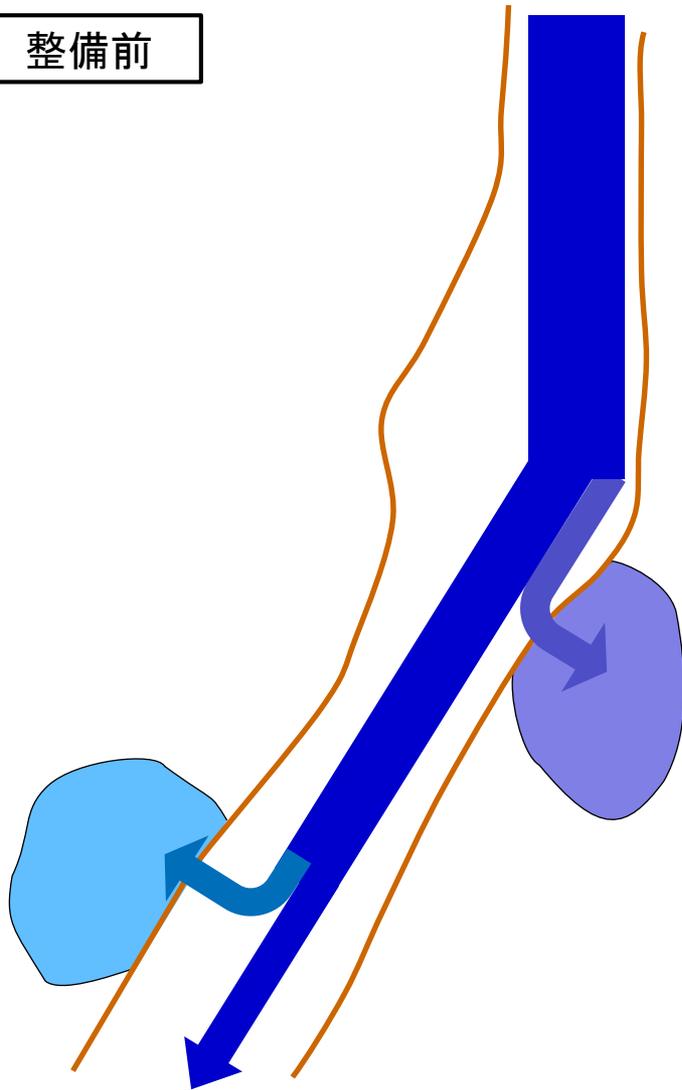


※引用）・岐阜県ホームページ（写真、被害状況）
 ・長良川 床上浸水対策特別緊急事業パンフレット（岐阜県）（被害状況）
 ・平成16年台風23号記録誌～その被害と復旧の記録～（岐阜県）

○河川整備を上流側から行った場合、下流側での水害リスクが増大するためNG。

(整備目標となる洪水が流下した場合のイメージ図)

整備前



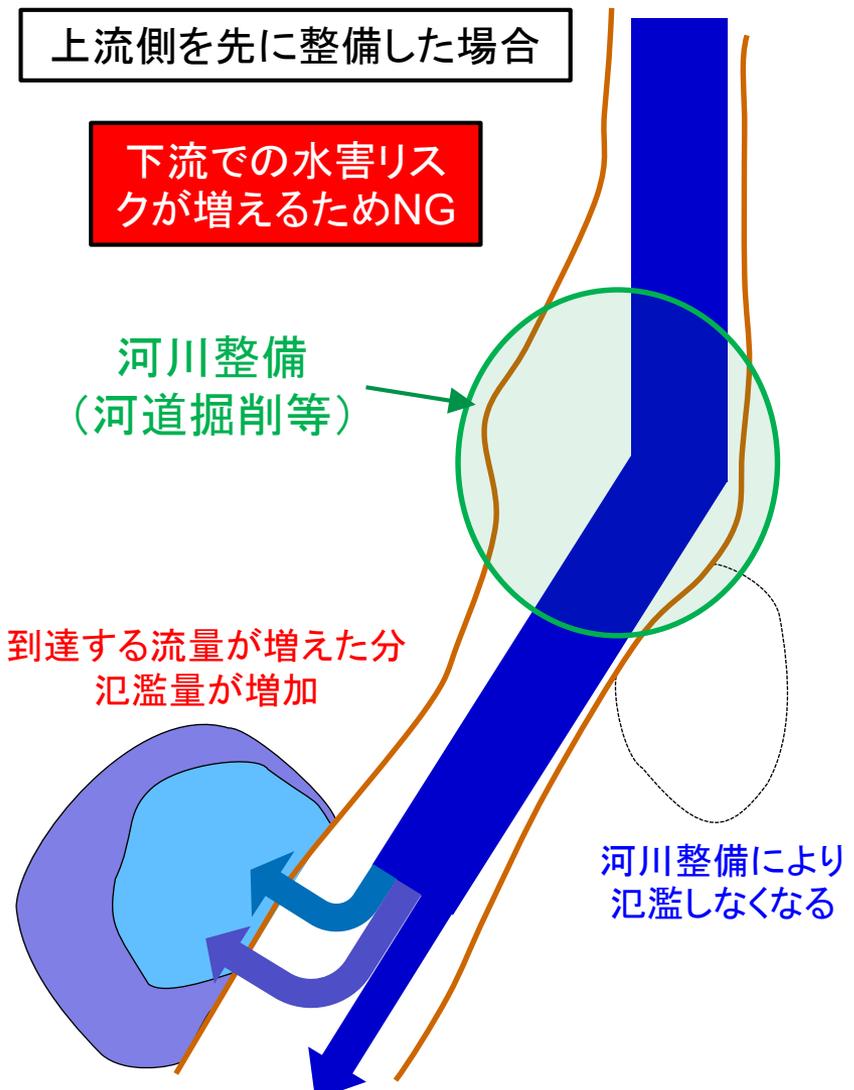
上流側を先に整備した場合

下流での水害リスクが増えるためNG

河川整備
(河道掘削等)

到達する流量が増えた分
氾濫量が増加

河川整備により
氾濫しなくなる

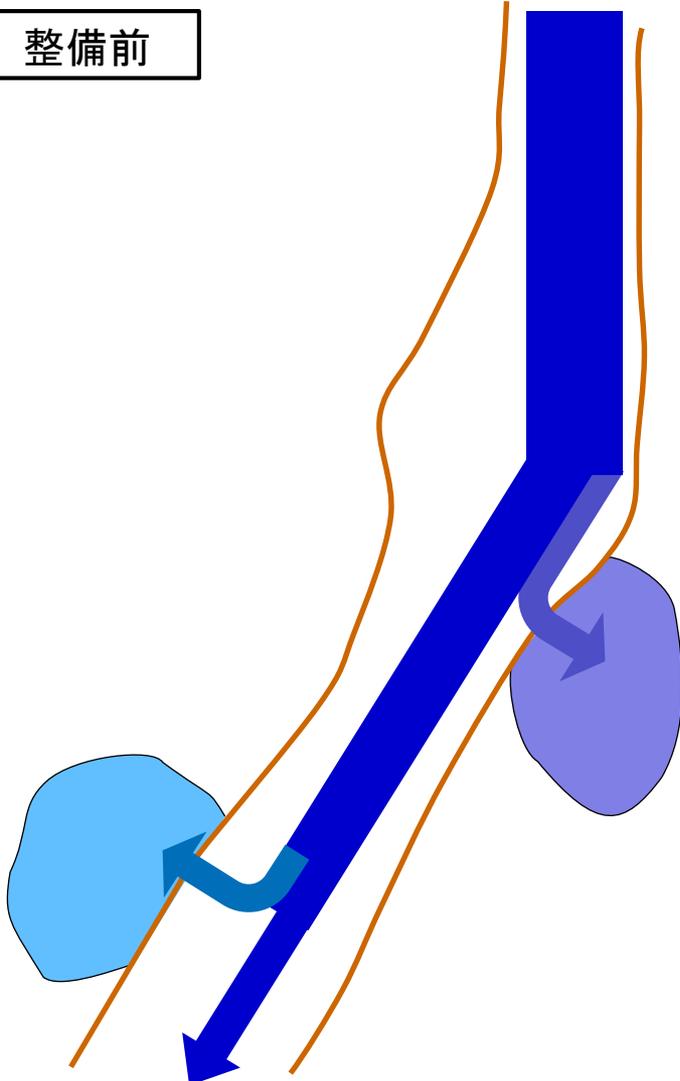


河川整備の原則について

- 下流側の水害リスクが増大しないよう、河川整備は原則として下流側から行う必要がある。
- このため、上流側の河川整備は下流側の整備が完了してからとなる。

(整備目標となる洪水が流下した場合のイメージ図)

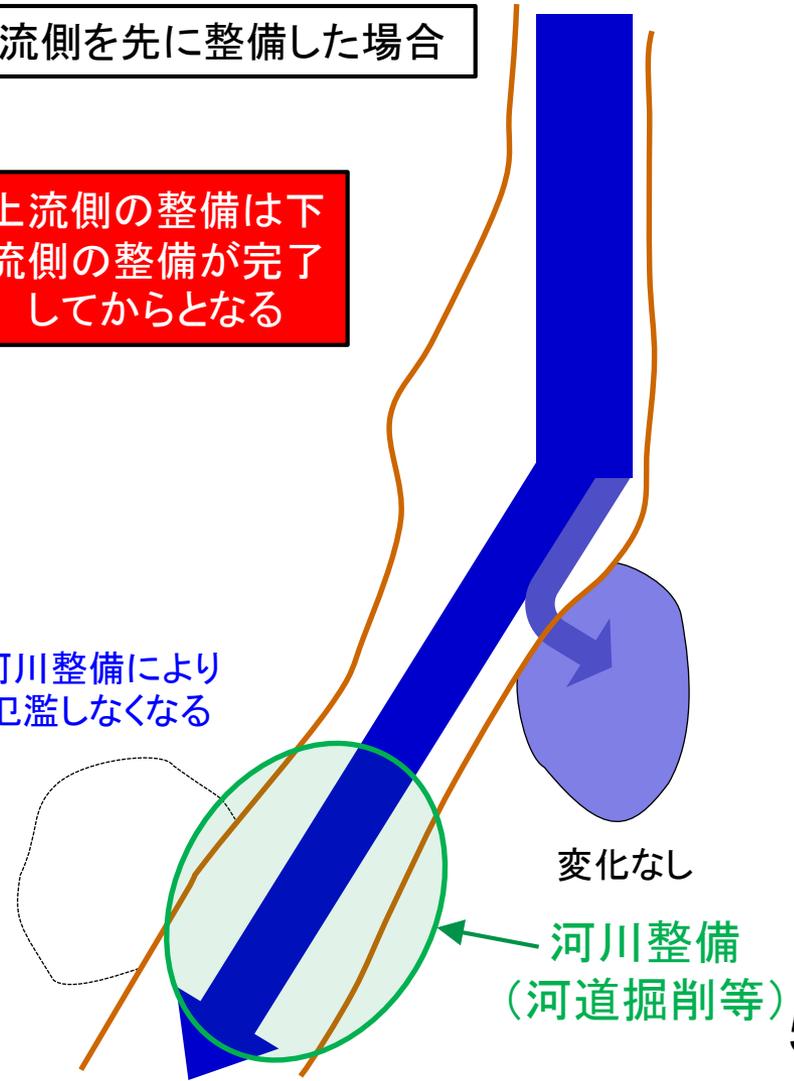
整備前



下流側を先に整備した場合

上流側の整備は下流側の整備が完了してからとなる

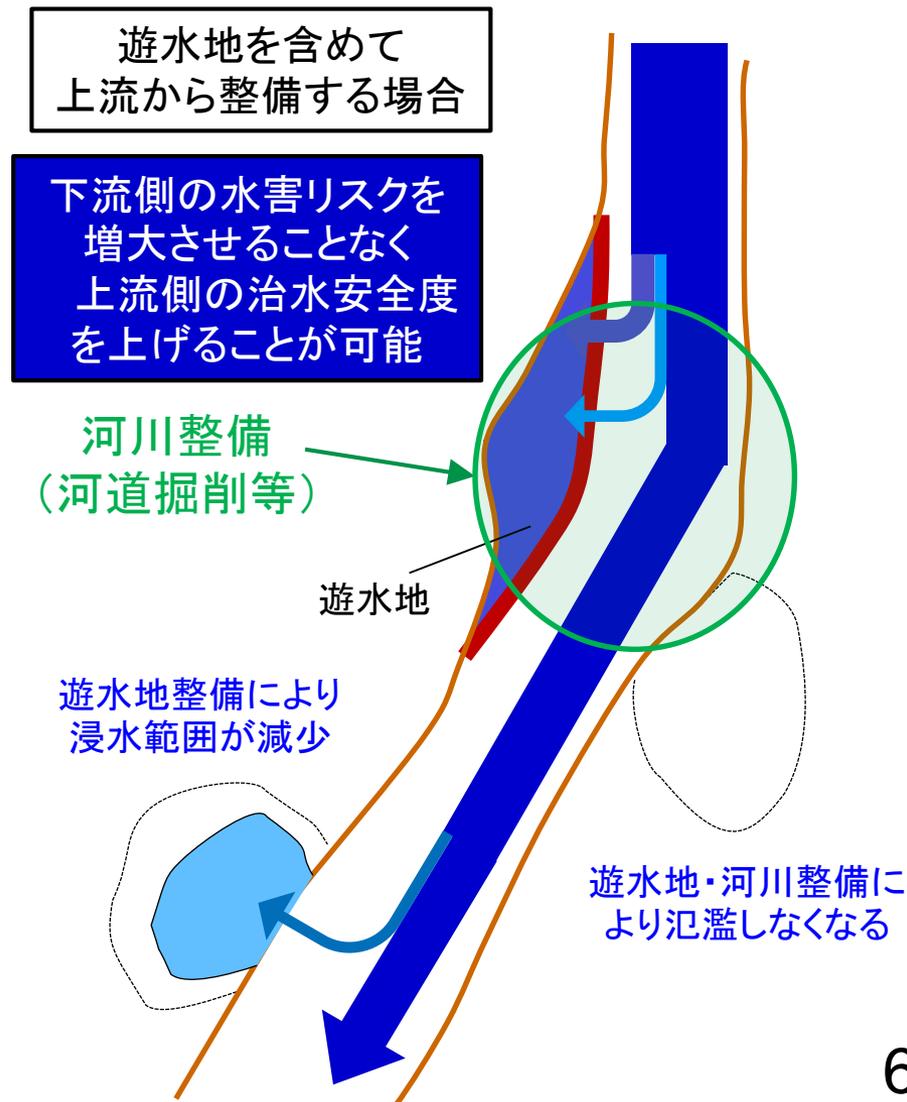
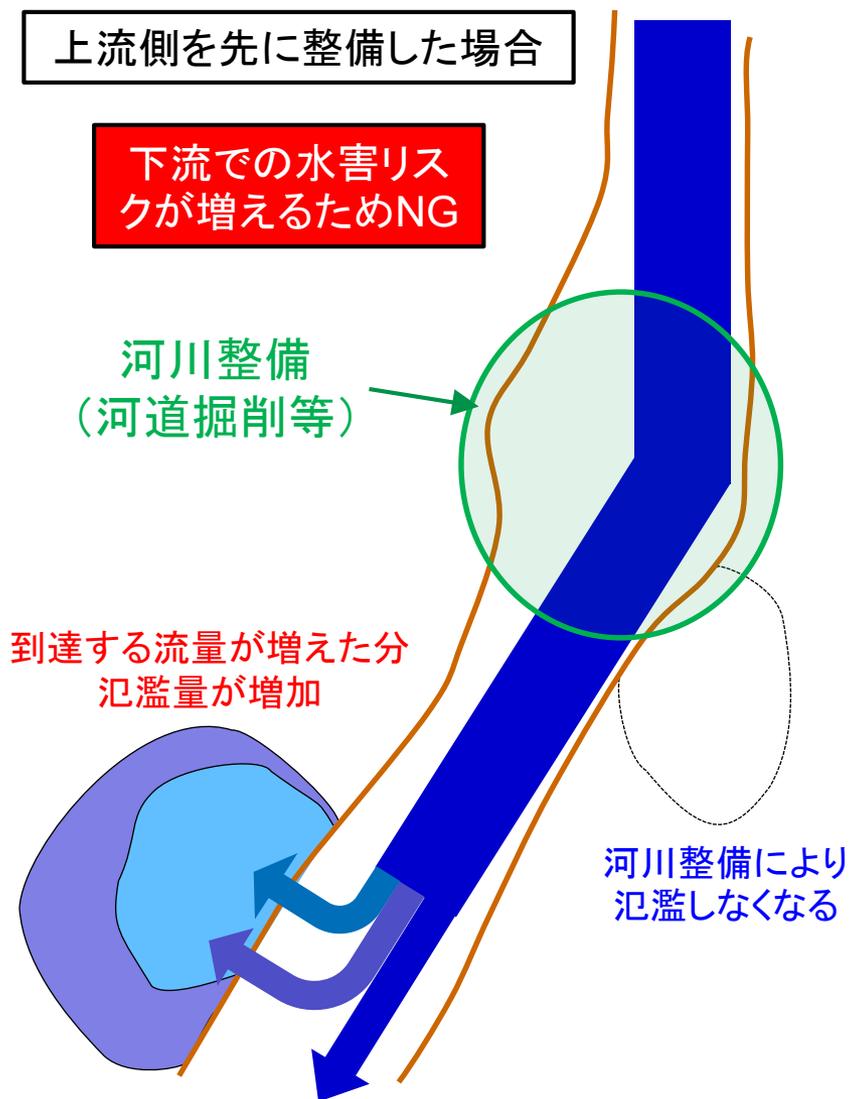
河川整備により
氾濫しなくなる



河川整備の原則について

○遊水地を含めた河川整備であれば、下流側の水害リスクを減少しつつ上流の整備が可能。

(整備目標となる洪水が流下した場合のイメージ図)



遊水地整備の必要性

- 平成16年10月洪水で被災した中有知地区の治水安全度を一刻も早く向上させることが喫緊の課題。
- 通常の河川整備であれば、下流側への水害リスクの増大を防ぐため、中有知地区周辺の整備は下流側の整備が全て完了してからとなる。
- 一方、遊水地整備を含めた河川整備を行うのであれば、中有知地区を下流側よりも先に整備できるため、横越地区に遊水地を整備することは、中有知地区にお住まいの皆様にとってもメリットが大きいと考えている。

- 中有知地区では、平成16年10月洪水において、長良川からの越水による浸水被害が発生しており、長良川の河川整備を行うことは喫緊の課題である。
- あらゆる洪水に対応した治水対策ができれば理想だが、大規模になればなるほど整備期間が長くなり、かつ整備効果が表れるまで時間がかかる。
- 一刻も早く治水安全度を上げるため、当面の措置として、まずは平成16年10月洪水に対応した河川整備を行うこととしている。

遊水地整備の留意点と整備効果

- 遊水地整備により、中有知地区の治水安全度が下がるようなことがあってはならない。
- 本遊水地は河道内に整備するものであるが、本川の河道掘削※1を合わせて行うことで、河道の流下能力を現況よりも上げることを目指している。
- 遊水地整備と河道掘削により、平成16年10月洪水と同規模の洪水に対し、道塚堤防区間で約0.4m～約0.5m水位が低下※2し、道塚堤防からの越水を防ぐ効果が見込まれる。

※1 連続する上下流で同程度の河道幅とすることで河道掘削後の土砂の再堆積を抑制
(再堆積による支障が認められた場合には予算の範囲内で維持掘削を実施)

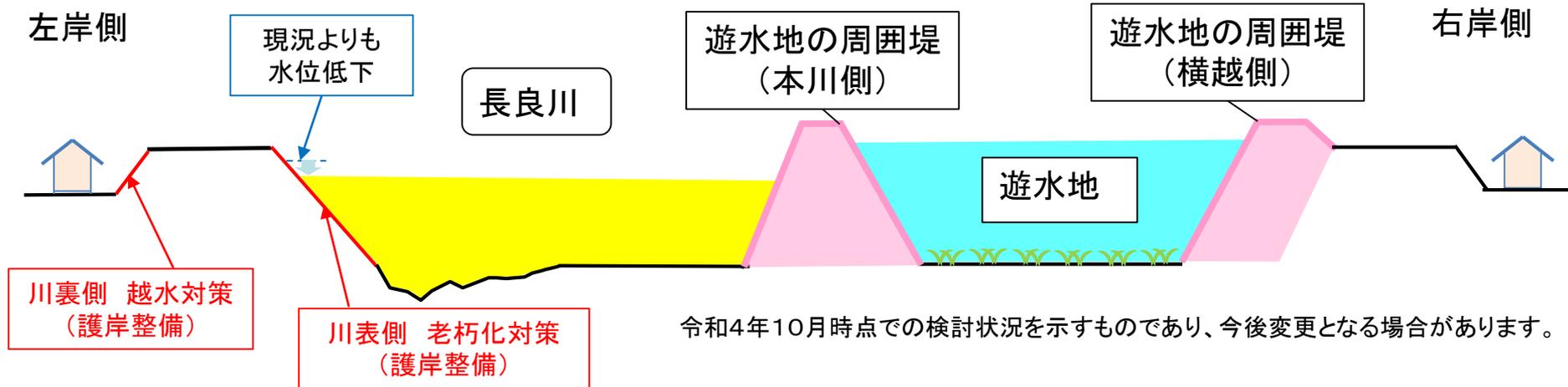
※2 湾曲による水位上昇を考慮している



令和4年10月時点での検討状況を示すものであり、今後変更となる場合があります。

道塚堤防の強化について

○ 遊水地整備及び本川の河道掘削と合わせて、道塚堤防の老朽化対策や越水対策等を行い、中有知地区の治水安全度を更に向上させる。



道塚堤防 川裏側の様子



道塚堤防 川表側の様子



遊水地整備後の中有知地区の治水安全度について

- 横越地区に遊水地を整備したことにより、中有知地区の治水安全度が下がることがあってはならない。
- 横越地区の遊水地は河道内に整備するものであるが、遊水地整備と合わせて本川の河道掘削を行うことで、現況よりも安全度の高い河道とする。
- 遊水地整備及び河道掘削により、平成16年10月洪水と同規模の洪水に対し、道塚堤防区間で約0.4m～約0.5m水位が低下※し、道塚堤防からの越水を防ぐ効果が見込まれる。 ※湾曲による水位上昇を考慮している
- さらに、遊水地整備と合わせて道塚堤防の老朽化対策(川表側)や越水対策(川裏側)、百間堤の強化(拡幅)を実施し、中有知地区の治水安全度を更に向上させる。
- これらの治水対策は、平成16年10月洪水を上回る洪水(超過洪水)に対しても有効であり、中有知地区は超過洪水に対しても現況より安全度が向上する。

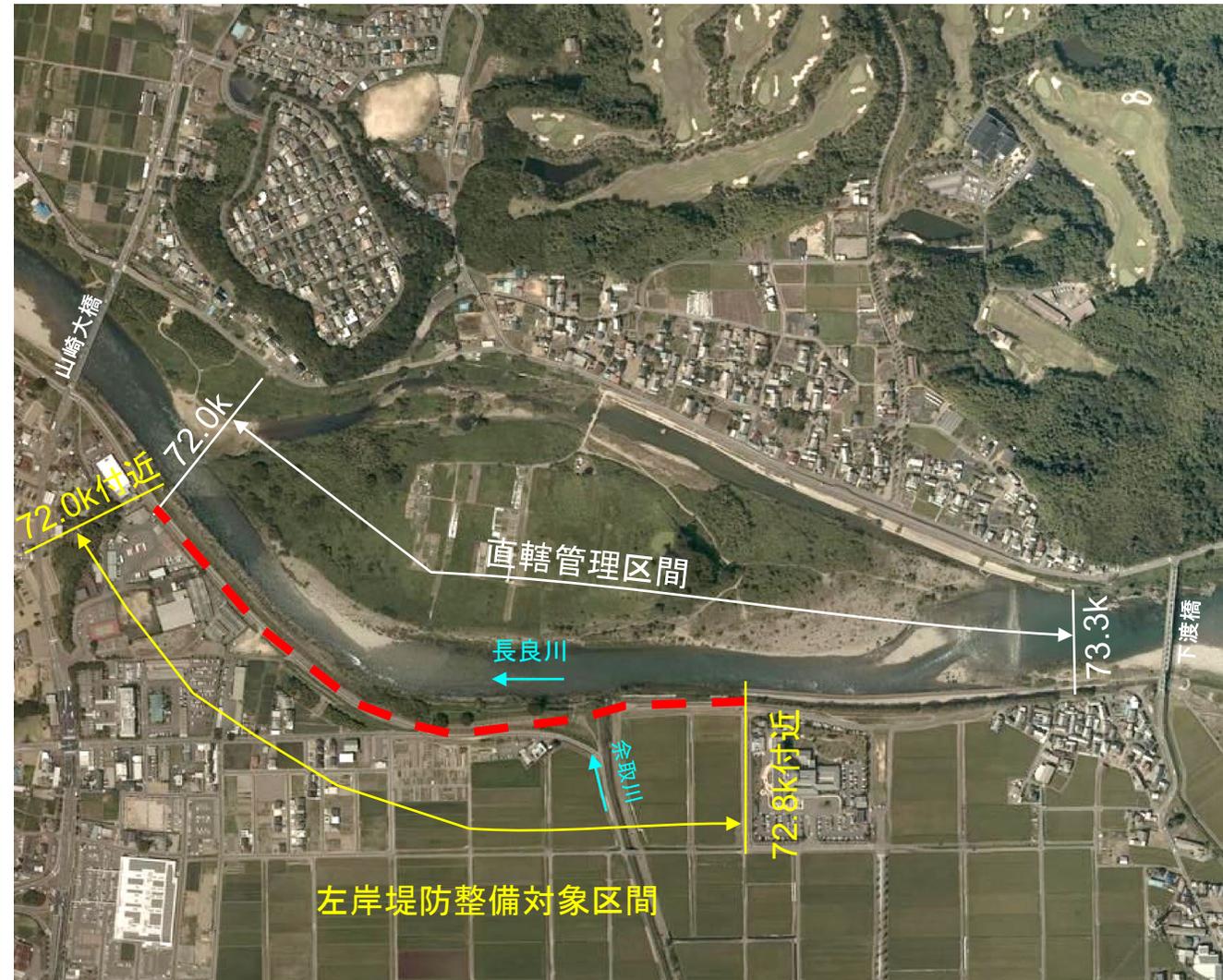
左岸堤防の整備について

国土交通省 中部地方整備局
木曾川上流河川事務所

令和4年10月

1. 堤防整備の概要

- 令和3年4月より、長良川河口から72.0k～73.3kの区間は、国土交通省の直轄管理区間となった。
- 直轄管理区間の左岸堤防の点検結果を踏まえ、老朽化対策を実施する。
- 整備区間は、72.0k～72.8k付近を対象とする。



写真① 72.0k付近より上流を望む



写真② 72.8k付近より下流を望む

- 左岸堤防の川表護岸は、玉石護岸および法枠コンクリート護岸等が整備されている。
- 護岸の状態は、老朽化が進み、コンクリートの剥離やひび割れ・欠損、樹木が繁茂している。
→ 老朽化の進行に伴い、護岸機能の低下が懸念されるため、左岸堤防の川表護岸の整備を行う。



写真① 護岸のひび割れ・欠損



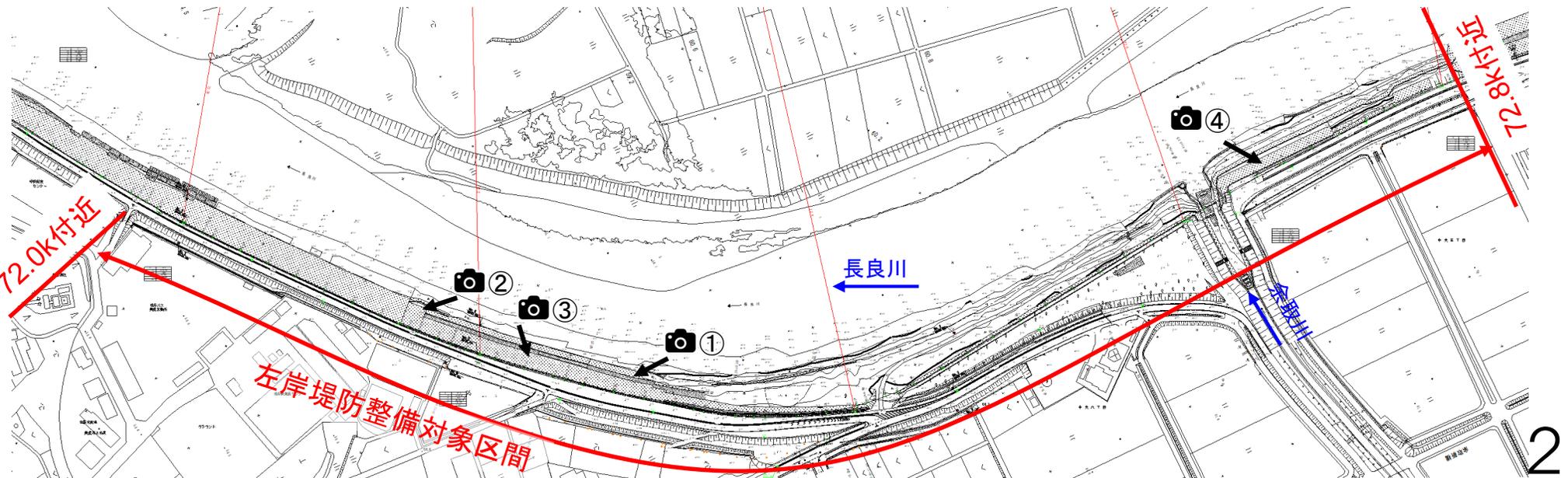
写真② コンクリートの剥離



写真③ 樹木の進入

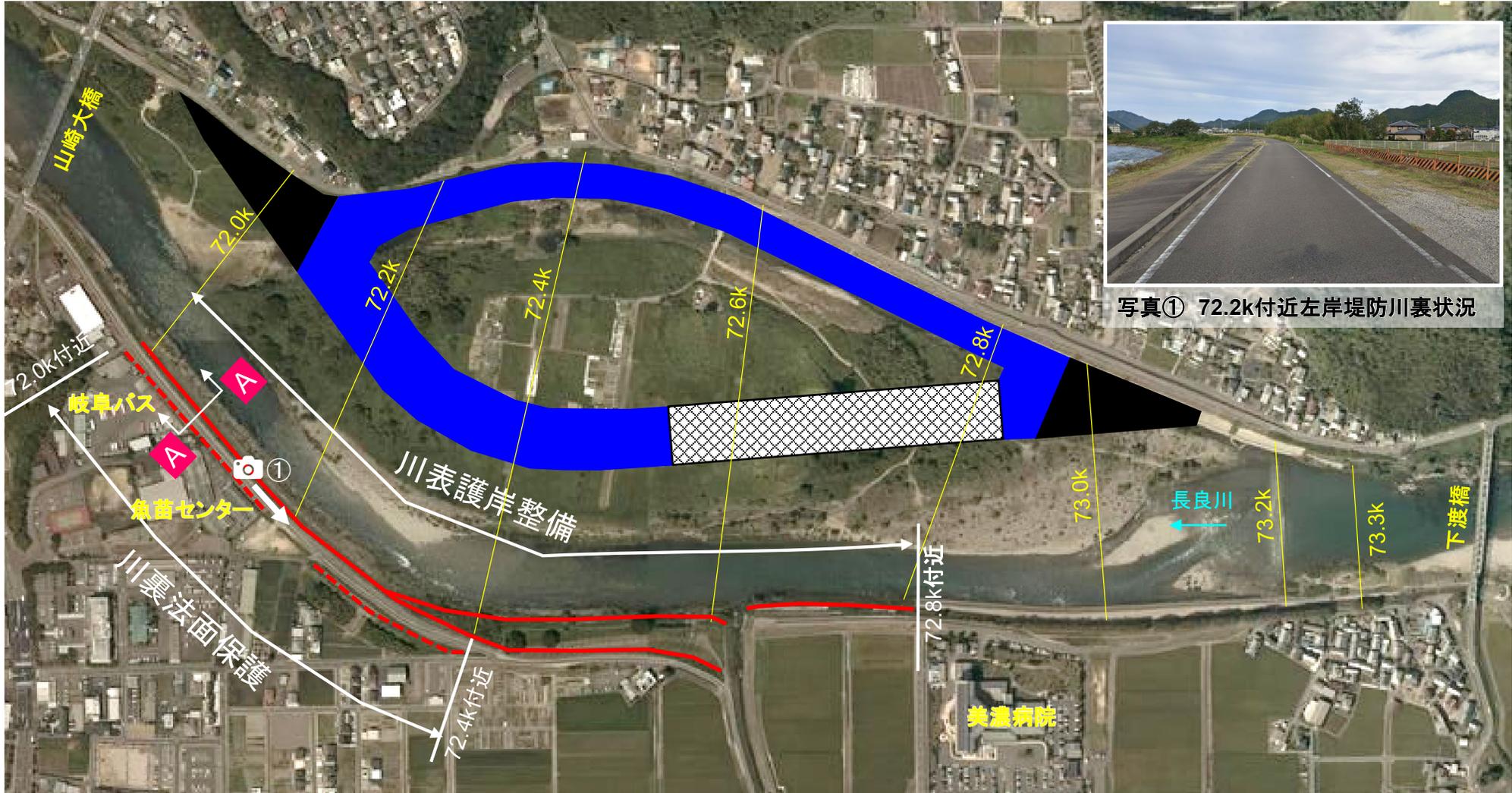


写真④ コンクリート吹付部の劣化に伴う植生の侵入



3. 堤防整備の内容

- 左岸堤防の川表護岸の劣化状況および今後の老朽化の進行の恐れがあることを踏まえ、72.0k～72.8k付近の川表護岸の整備を実施する。
- 過去に越水の実績がある区間を中心に、川裏法面の保護対策を合わせて行う。



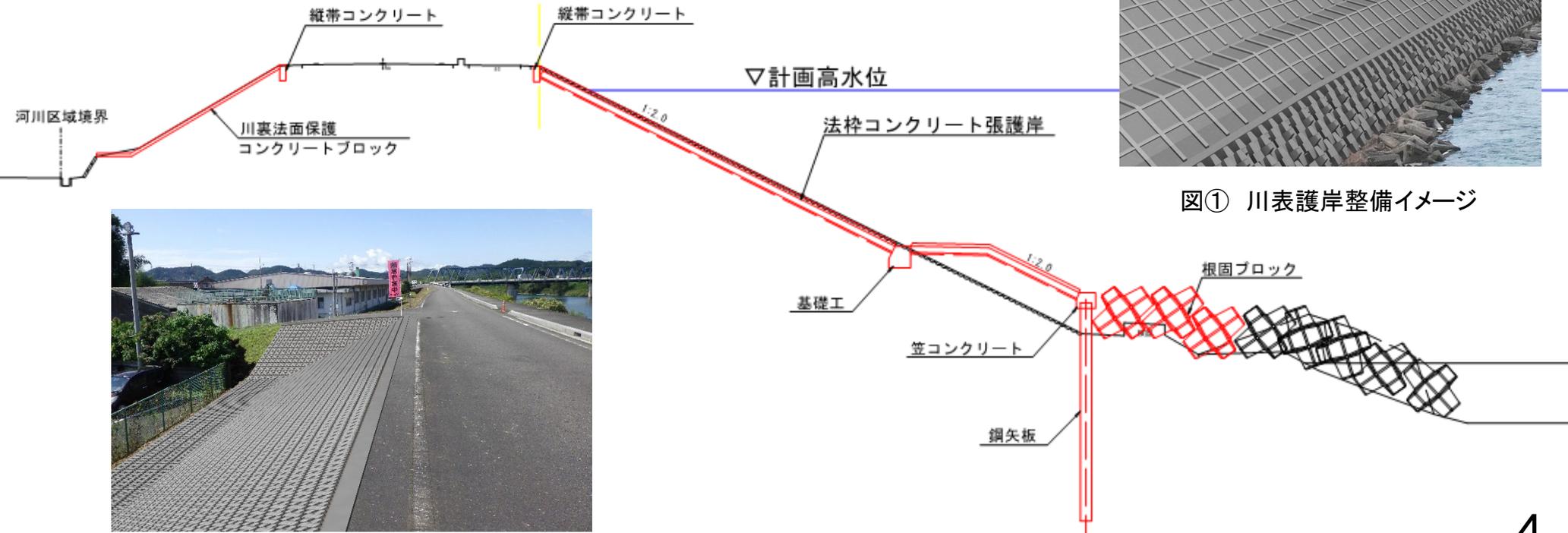
【川表護岸整備】

- 護岸の形式は、72.8k付近より上流の既設護岸と同様の構造である法枠コンクリート張護岸とする。
- 護岸の改修は、生態系への影響等を考慮し、水辺の改変を避けるため鋼矢板を用いた護岸とする。

【川裏法面保護整備】

- 越水実績を考慮し、越水による堤防法面侵食を防止するため、コンクリートブロックを設置して強化する。
- 沿川の民家や施設等に影響しないよう、河川区域内で整備を実施する。

標準断面図(A-A)



図① 川表護岸整備イメージ



図② 川裏法面保護整備イメージ